

道路雨水洗浄槽設置に伴う埋蔵文化財第2次発掘調査報告書

久保上ノ平遺跡

1999

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

道野川水堀造利設置に伴う歴史文化財第2次発掘調査報告書

久保上ノ平遺跡

1999

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

序

本報告書は1997年に出版された「墓地公園及び宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘報告書『久保上ノ平遺跡』」の附録にあたる報告書です。上記報告書は平成7年4月から同年9月に行われた緊急発掘の記録ですが、その後、この時の発掘地に隣接して道路雨水溝建設が実施されることになり、40号が予定地とされました。この地は前回の発掘で、人骨文のみられる有孔井付土器が出土した40号住居跡の大部が含まれていることもあります。これらの解明に大きな期待を持って発掘を進めました。

今回の発掘は前記40号住居跡の全体を見たいという願いから、100mに拡大して行いました。その結果、住居跡全体の姿は明らかになりましたが、埋乱が広範囲にわたっていました。有孔井付土器の埋藏時期を明確にするところまではいきませんでした。しかし、40号住居跡の全体像が明確になったことは、今後の研究に資するものと考えています。なお、40号住居跡に隣接して42号住居跡の一帯を開削しました。ここでも埋乱が激しく、また、検出範囲も少なかったため、不明の部分を残す結果となってしまいました。

試掘から始まって本調査の終了までは一ヶ月を要しました。本調査が始まった4月は雨の日が多く、発掘に参加していただいた皆さんには大変なご苦労をおかけしました。また、出土品の整理、復元、報告書の作成に携わっていただいた皆さんのご苦労により、この調査書が成りました。ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

高安輪村教育委員会

教育長 春日 正

例　　言

- 本書は佐野市上伊那郡高鷲町1364-1に所在する久保上ノ平道路の発掘調査報告書である。
- 調査は高鷲町土地開発公社による宅地造成に伴う道路雨水施設調査を実施に高鷲町教育委員会がおこなったものである。
- 発掘調査は平成16年3月23日から平成16年4月28日までおこない、引き続いて整理作業及び報告書の執筆をおこなった。
- 土器の復元は権門君一氏にお願いした。
- 遺物数は1:60に統一した。
- 遺物の構成は1:3、1:6を標準にしているが、小器物の場合に1:2を用いた。
- 調査・復元にあたっての出土遺物及び図版類は高鷲町教育委員会で保管している。

本文目次

序

目　　次

第1章　道路の立地と環境	1
第1節　道路の位置	1
第2節　自然環境	2
第3節　歴史的環境	2
第2章　調査の経緯	3
第1節　調査の実績と通過	3
調査方法	3
第2節　調査の体制	29
第3章　遺跡と遺物	31
第1節　伝統法	31
必号位遺址	31
4号位遺址	35
第2節　遺跡外出土遺物	38
第4章　結　　論	39
引用参考文献	39
図　　版	

第1章 道路の立地と環境

第1節 道路の位置

八木上ノ平道路は南アルプスと中央アルプスにはさまれた伊勢谷北端の天竜川右岸、南裏松町1344番地（本上ノ平）に位置している。天竜川により形成された河岸段丘の上段から下段目に位置する道路の標高は702.6mで、ここからは、眼下に天竜川により形成された沖積地と南アルプスの山麓を一望することができ、豊かなのいいへん良いところである。



第1図 道路位置図

第2節 自然環境

南宮跡村は長野県伊那盆地北部の広く開けた流域の天竜川右岸に位置している。地形的にみると西に位置する木曾山脈岐阜県山地帶に属する飛ヶ山山系の飛地を除いては、その麓を源流とする開拓地と天竜川により形成された冲積地からなっている。

開拓地は一帯天竜川、小沢川の積善橋地区になっていて、ほとんどが大農地により形成されたものである。山間から段丘台地部までの標高は最大で約4,500m、標高は700mから900mに及び、東へ約2度のゆるやかな傾斜地となっている。

階状地盤構造は、階級状に複数が形成されている。また、階状地帶特有の湧水からなる小沢川の侵食により形成された沢が10箇所みられる。

天竜川盆地に最も広く分布は最大で幅員約40mを有り、一部には断層の影響を観察できるところがあるため、その地形形成は大糸川や天竜川等、河川の開拓や侵食だけではないことが推定される。

自然水系としては西の山地より流れ来る大糸川・大瀬木川・戸谷川のほか、前述した段丘部を源流とする北武川・南武川・鬼ノ沢等の小河川が天竜川に流れ込んでいる。

西の山間から流れ出る河川は階状地帯先端では伏流水は発達するが、階級部付近で再び露出する。この湧水は水量及び水温が比較的安定しているので、現在ではそれを利用したワサビ栽培が行われている。

これら階級部からの湧水量と水質は、昭和3年に階状地帯を横切る際でつくられた灌漑用本幹導水管である西天竜水管の完成と、それに伴う大規模な開拓により変化したといわれる。

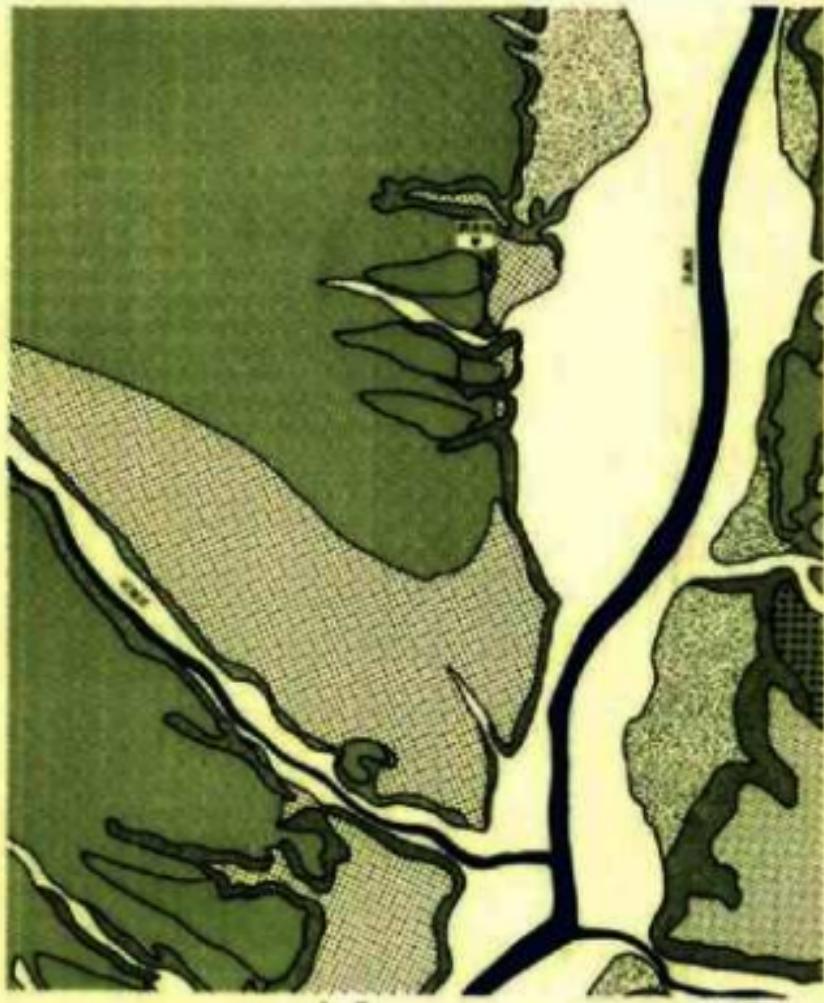
沖積地は昭和27年から28年にかけて実施された土地改良事業により水田地帯となつたが、それ以前は天竜川により形成された自然溝渠による後背地帯と階状地帯構造からの標本により、幾つもの標本が点検する大畠地帯であった。近年この地域は宅地化がすんでいる。

第3節 歴史的環境

南宮跡村には現在確認されているもので45の遺跡があるが、そのほとんどは階状地帯を基盤とする大糸川・大瀬木川・戸谷川の両側と、階状地帯構造の天竜川右岸段丘上に位置している。特に天竜川沖積層に遺跡遺跡があり、北端の南宮町と地蔵寺まで大遺跡の一角を占めている。

これらの中でも有名なものは「神子御遺跡」である。神子御遺跡は天竜水管導水管に位置する河遺跡は昭和33年に発見され、神子御遺跡石碑（国重要文化財指定）の設立をみた。

縄文時代では、これまでに大正遺跡・大正遺跡・北高根A遺跡・高根遺跡・高根遺跡などの調査で遺跡・遺物が確認されている。これらの調査では早期・中期の遺跡は確認されていないが、神子御遺跡の1次調査で押切史土器の破片が出土している。また、大正遺跡・高根遺跡・北高根A遺跡においても早期から中期にかけての土器片が出土している。佐野山は天竜遺跡・大正遺跡・北高根A遺跡で確認されている。これらは天竜水から中筋にかけてのもので、量的には中期の遺跡・遺物が多い。この他にも久保上ノ平遺跡では平安7年の銭面により、同遺跡が中筋中段～中筋末にかけての既存的遺跡であったことが確認され、形態的な色々の強い遺跡・遺物が多く出土した。地蔵寺では遺跡の確認はないが、神子御遺跡・高根遺跡・久保上ノ平遺跡で土器片が出土している。



1:100,000	1:100,000
1:100,000	1:100,000
1:100,000	1:100,000
1:100,000	1:100,000

1:100,000	1:100,000
1:100,000	1:100,000
1:100,000	1:100,000
1:100,000	1:100,000

・平安時代では遺跡の出土品は多く、天保遺跡・北高根古墳跡・北坂外遺跡でわずかにみられる。北坂外遺跡から中期の住居址が検出されているが、ほとんどは後期にあたるものである。久保上ノ平遺跡からは、住居址の他に方形周溝墓群が検出された。また、神領地の天保遺跡からは木造瓦葺の構造はできなかったものの、土器・石器・瓦器等の遺物が出土している。

古墳時代では、子持勾玉と直刀が出土したと伝えられる丸山古墳が遺言されているほか、北坂外遺跡より羅円形土製品が出土し、古墳時代屋内祭祀関連の資料の追加をみた。また、天保遺跡においては、多くの住居址が検出され、そのなかから輪郭をなしてはいるが須恵器の窯跡が出土している。

なお、荒削調査によるものではないが、宮の上遺跡より和紀上野春高台付近や五母塚など付近すべて遺物が出土している。

最後、平安時代をみると、農業はさらに各河川の河岸段丘周辺でも既に山麓付近にまで広がるようになる。古代東山道との関連も含め、今後の検討課題の一つである。

また、宮の上遺跡からは平安時代中期の大葬施設が検出された。しっかりとした石組みの基壇からは完全な形で出土している。施設を埋蔵してあった天保陶器埴輪は完形で出土し、村衙文化財となっている。

中世には天保川右岸の蛭塚遺跡にその地形を利用して、櫛木城・牛込城・垂井城・布留城・内藤などの城籠が築かれている。

表18 屋山遺跡一覧表

番号	地 点	性 質	測量	測定	測定	測定	測定	年代	備 注
1	天保上ノ平	土器	○	○	○	○	○		平安下平安初期
2	天保上ノ平	土器			○				
3	天保上ノ平	土器	○	○					
4	天保上ノ平	土器	○	○		○			
5	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
6	天保上ノ平	土器	○	○	○	○	○		昭和32年～平成5平安初期
7	天保上ノ平	土器	○	○					
8	天保上ノ平	土器	○	○					
9	天保上ノ平	土器	○	○	○	○	○		昭和32年平安初期
10	天保上ノ平	土器	○	○					平安下平安初期
11	天保上ノ平	土器	○	○		○			
12	天保上ノ平	土器	○	○					
13	天保上ノ平	土器	○	○					
14	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
15	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			平安下平安初期
16	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
17	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
18	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
19	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
20	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
21	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
22	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
23	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
24	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
25	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
26	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
27	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
28	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
29	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
30	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
31	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
32	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
33	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
34	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
35	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
36	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
37	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
38	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
39	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
40	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
41	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
42	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
43	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
44	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
45	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
46	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
47	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
48	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
49	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
50	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
51	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
52	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
53	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
54	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
55	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
56	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
57	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
58	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
59	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
60	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
61	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
62	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
63	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
64	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
65	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
66	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
67	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
68	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
69	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
70	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
71	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
72	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
73	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
74	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
75	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
76	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
77	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
78	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
79	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
80	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
81	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
82	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
83	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
84	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
85	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
86	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
87	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
88	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
89	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
90	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
91	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
92	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
93	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
94	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
95	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
96	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
97	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
98	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
99	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
100	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
101	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
102	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
103	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
104	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
105	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
106	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
107	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
108	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
109	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
110	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
111	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
112	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
113	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
114	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
115	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
116	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
117	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
118	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
119	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
120	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
121	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
122	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
123	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
124	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
125	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
126	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
127	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
128	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
129	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
130	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
131	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
132	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
133	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
134	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
135	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
136	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
137	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
138	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
139	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
140	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
141	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
142	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
143	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
144	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
145	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
146	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
147	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
148	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
149	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
150	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
151	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
152	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
153	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
154	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
155	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
156	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
157	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
158	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
159	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
160	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
161	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
162	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
163	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
164	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
165	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
166	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
167	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
168	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
169	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
170	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
171	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
172	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
173	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
174	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
175	天保上ノ平	土器	○	○	○	○			
176	天保上ノ平	土器	○						



DAEJU-Y DAET GONE DAEK GONE GONE DAEJ GONE GONE GONE
GONE GONE GONE GONE GONE GONE GONE GONE GONE GONE
GONE GONE GONE GONE GONE GONE GONE GONE GONE

第122 地图部分地区

第2章 調査の経緯

第1節 調査の実施と経過

久保上ノ平遺跡は、平成7年度に村及び村土地開発公社による墓地公園造成事業と宅地造成事業に併せての測量・調査が実施されている。この調査により周文時代中期・後半時代後期・奈良・平安時代の3時代にかけての遺構・遺物が検出された。なかでも南北時代のもので、屋外に土器を配置した特殊遺跡や人骨の全骨を出した人骨付土器・人の手が写真的に表現された土器片などの特異なものが検出され、内外より注目されることになった。その他の、それまでの上伊賀郡内で最多となる方形周溝墓群が検出されるなど、各時代の墓群や基礎が高い密度で埋設した複合遺跡であることが明らかとなった。

平成9年度になって、村土地開発公社により墓地公園の駐車場北側部分に道路排水桿通判の設置が計画された。これを受けた村教育委員会では、設置予定地に平成7年の調査によって遺跡のあることが確認されていたため、排水桿設置予定地の約100mの範囲調査を実施することになった。

調査の実施で確認された遺跡は、人骨のみならず着衣焼付土器が出土していた住居跡であったことから、住居跡全体をみる必要があると判断し、前回の調査区域であった住居跡北側部分の約50mについて再調査をおこなった。

調査は、まず前回の調査区域にトレンチを設定し住居跡の位置を確認し、前回の調査で発掘した住居跡の検出部分を確認した後、墓地公園駐車場部分の客土を直接取り除き、検出に入った。

グリットの設定は前回の調査時のものと同様にした。2m×2mのグリットに座標から、東西列をA-Eのアルファベット、南北列を連続数字であらわしている。また、新たに確認した遺跡の番号については前回の調査で確認した遺跡番号から続いた番号を用いた。

調査は試掘調査を平成10年3月23日より開始し、遺跡の位置を確認したのも平成10年4月6日から4月28日まで本調査をおこなった。

○調査日誌

3月

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|----------------------|
| 3月23日 | 雨水排水桿設置位置の測量と、機材の搬入をおこなう。 | 3月26日 | トレンチの掘削をおこなう。30号・35号 |
| 3月24日 | トレンチの設定をする。 | 3月27日 | 住居跡の復元する。 |
| 3月25日 | トレンチの掘削をおこなう。あらたにトレンチを1本設定し、掘削する。 | 3月28日 | 雨天のため作業中止。 |

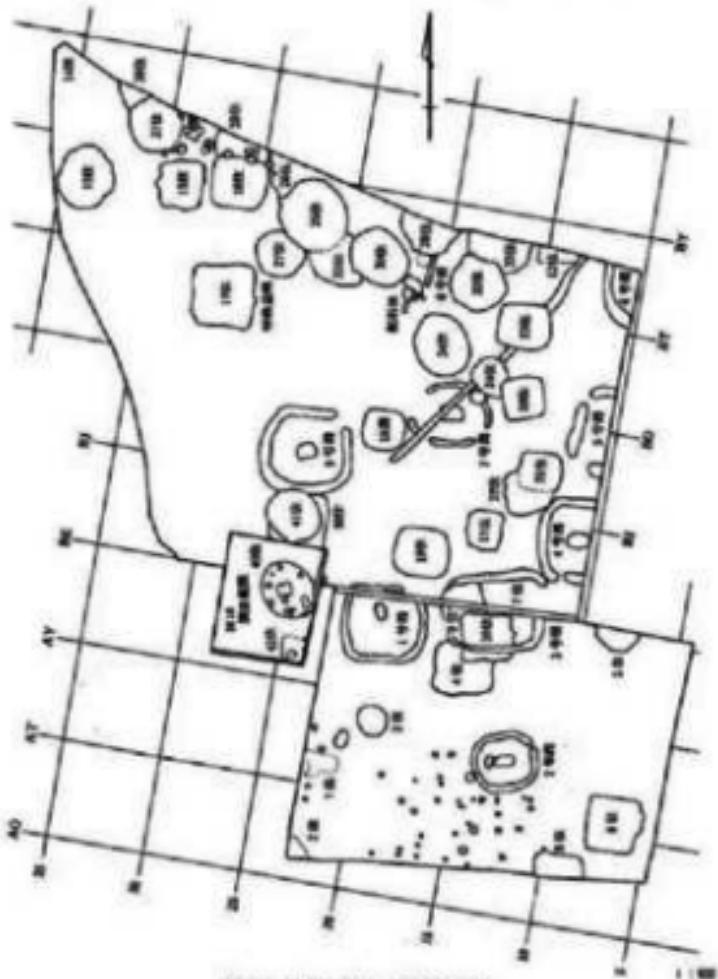
4月

- | | | | |
|------|--------------------------------------|-------|--|
| 4月6日 | 雨天のため作業中止。 | 4月12日 | 雨天を以て作業終了とする。また、4号住居跡の掘削をつかむため、サブトレンチを入れる。夕方、雨が降り出し作業中止。 |
| 4月8日 | 午前中に上面削除をおこない、調査地表面部分で住居跡を1本確認する。この後 | | |

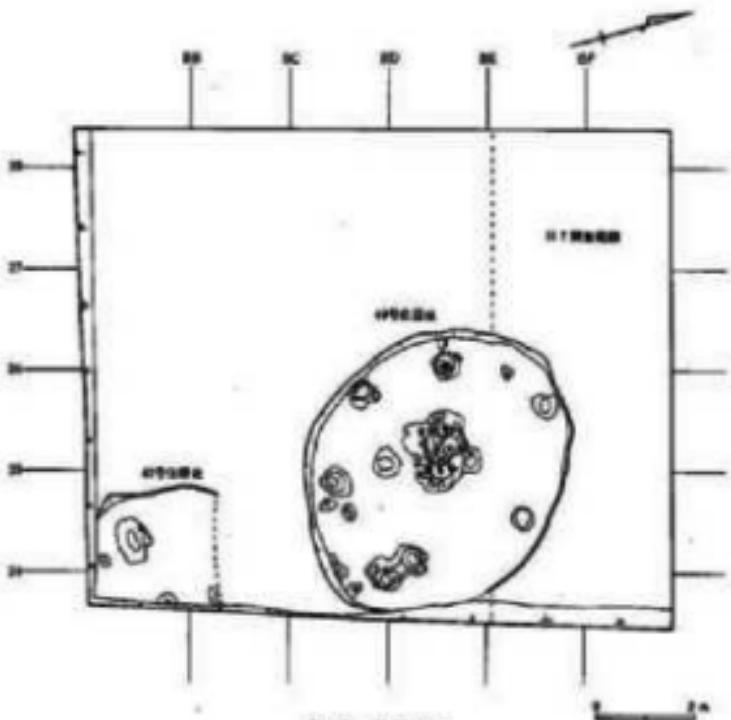


図43 横浜市地図

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 4月9日 | 雨天のため作業中止。 | 4月14日 | 雨天のため作業中止。 |
| 4月10日 | 上部確認をおこなう。40号住居地に入れ
たサブトレンチより住主の入ったビット
を確認し、表面の調査範囲と山号住居地
の範囲をほぼ特定する。 | 4月15日 | 雨天のため作業中止。 |
| 4月12日 | 雨天のため作業中止。 | 4月16日 | 40号・42号住居地の標高をおこなう。半
島に40号住居地の土壤剖面の記録をする。
また、42号住居地より填造砂浜、土砂移
動量の範囲が出土する。 |



第1図 第1大、第1大調査区域全概況



第6図 透水性测定

- | | |
|--|---|
| 4月17日 40号・42号柱頭法の検出をおこなう。半
強になり雨となったので作業中止。 | 4月18日 午前中既定のため作業中止。午後作業を
おこなう。40号柱頭法炉は床面でP ₂ を確
認し、検出する。 |
| 4月20日 40号・42号柱頭法の検出をおこなう。40
号柱頭法ではピット3基と炉底を検出す
る。 | 4月21日 雨天ため作業中止。 |
| 4月21日 40号柱頭法の炉底とP ₁ ～P ₃ の検出と土
盤表面の初期をとる。P ₁ より石粉2個が
出土する。 | 4月22日 40号柱頭法のP ₂ の上層表面の記録と透
水の全体測定、写真撮影をおこなう。 |
| 4月22日 昨日に続き、40号柱頭法のP ₁ ～P ₃ の検出
と土盤表面の記録をとる。40・42号柱頭
法の平衡圧をとり、灌漑の取上げをおこ
なう。 | 4月23日 40・42号柱頭法の検出をはがしたところ、土盤
底の表面が出土する。40号柱頭法炉底の
出土部分を取り除くが、下層に過剰は確
認できなかった。測定後、写真撮影をして
調査小走て終了する。 |

第2節 調査の体制

○監査課長	岡田信吉 支社長（海賊船竹教育委員会学校長）
調査員	佐藤幸一
調査作業員（順序）	
	小沢よね子　五十嵐正子　森嶋典子　福澤ま子
・事務局	
松澤　伸	（海賊船竹教育委員会教育係）～日10.3
春日　正	（海賊船竹教育委員会教育係）日10.5～
・足立　昇	（海賊船竹教育委員会教育指導係代理・教育次長）
猪俣由江	（海賊船竹教育委員会社会教育係係長）～日10.10
山崎大輔	（海賊船竹教育委員会社会教育係係長）日10.10～
有賀仁志	（海賊船竹教育委員会社会教育係）
宮下敏可	（海賊船竹教育委員会社会教育係）
松澤史太郎	（海賊船竹教育委員会社会教育指導係）

第3章 造構と造物

第1節 住居址

4号住居址

調査地の北東部より検出した。この住居址は平成7年の調査時に4号住居址として住居址北側の一部を検出しており、人骨の全骨が発見された人骨のみならず有孔骨付土器や吉行土器の古器が出土している。

住居址のプランは、長軸6.3m、短軸3.1mの楕円形を呈する。玄関は東一30°-Wを示す。壁高さは55-60cmである。壁の裏方は全体的に半分のやかま縁附を呈しているが、調査区域西側の地山の傾斜があつた部分についてでは、中央部に窓跡となっている。また、東壁の一部は壁の立ち上がりが不規則ではっきりしていなかった。周囲は整められたかった。床面はローム層まで掘り込まれて硬く叩き固められているが、住居址中央部分の西側から北側にかけての一帯が古野な状態をとどめているほかは、整地により破壊されており、礎化した床がブロック状に残存している状態で明確にとらえることができなかつた。

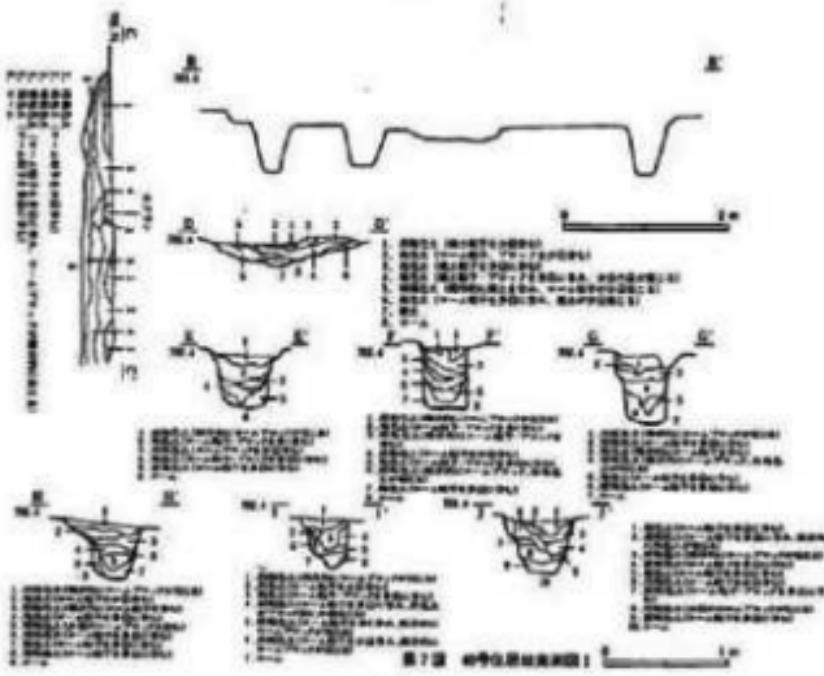
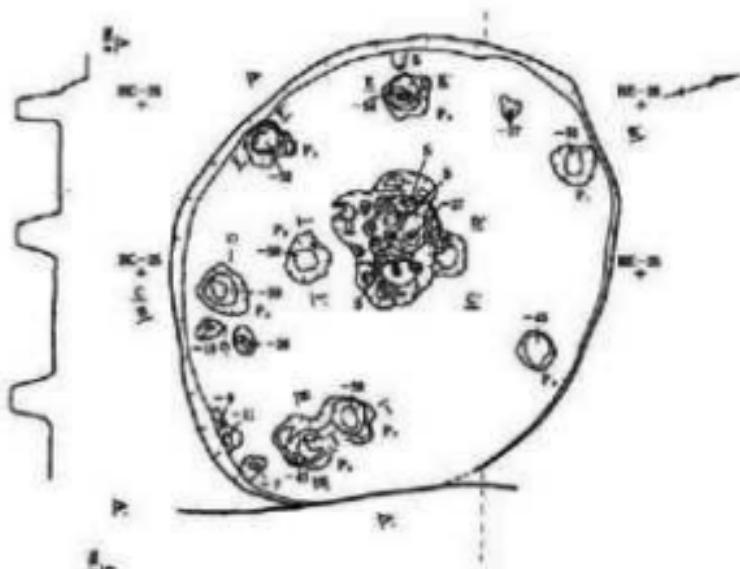
ピットは2基検出した。このうち、P₁-P₂は南面の隅度で検出しているものである。P₁-P₂のそれぞれの深さは43cm-58cmと安定している。生糞穴はP₁-P₂、P₃と思われるが、P₁-P₂の位置からみて、この住居址は抜築されているか、または2つの住居址が重複しているなど複雑関係のあることが考えられるが、事実北側部分が後世時代末-平安時代の住居址と重複していることや、床面のレベルに差異が見られなかつたことなどから、はっきりとしたなかった。2基のピットでP₁-P₂の断面形が複数となつていてある。

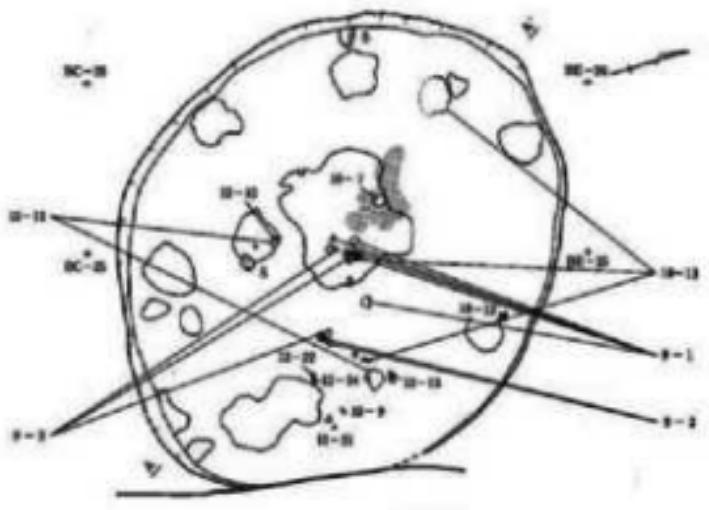
伊達は住居址のほぼ主軸上、中心よりやや北側のP₁-P₂の中間部分に位置している。伊達は石頭炉で、中心部の周囲には瓦を積み去ったと思われるくぼみがあつた。3個の瓦が石頭爐に積っていた。そのうちの1つは屋平を砂留を経て埋め込む形になっていた。これらの瓦は火熱を受けた跡が認められた。伊達の中心部周囲には埴土が広がり、伊達は赤変し硬直していた。伊達で、伊達が確認できたところは1箇所のみであつたが、覆土が比較的の広いことや伊達を抜き去ったと思われるくぼみの位置関係から伊達の墓地が考えられる。伊達周辺にみられた埴土部分及び周囲が複数の部分を認めたが、下層に遺構は認められなかつた。

遺物は散乱した状態で、出土した量は多くない。伊達周辺の床面以上より鋸歯型土器（図8-1-2-3）・浅鉢型土器（図8-10）が出土している。平成7年度調査時に出土した人骨のみならず有孔骨付土器（図8-1-13a）、P₁とP₂の中間部分で床面より検出したが、この土器の表面をジロジロ擦損の傾向を有するが伊達付近の床面以上及び埴土より出土した。また、伊達埴土上層より鋸歯型土器の口縁部（図8-7）。埴土中層より鋸歯型土器の把手部分（図8-3）が出土している。これら伊達より出土した土器は火熱を受けており、特に埴土中層より出土した把手部分については表面がケロイド状に変質している。

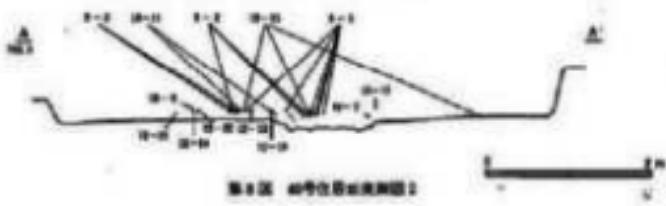
この他に住居址埴土中層より浅鉢型土器（図8-8）、古行土器合体（図8-12 平成7年度調査時出土）・土器片（図8-1）、また、P₁の埴土中より石器（図8-1）、東方擦石器（図8-2）、P₂の埴土中より擦石2個が出土したほか、住居址埴土中層より石器（図8-3）、不定形石器（図8-4）、住居址埴土上層より石器（図8-6-7）、石器（図8-8）などが出土している。

本章の時期は住居址が営被していることが考えられるためはっきりとしないが、遺物から判断すれば南北朝時代中期中葉-中期末であると思われる。





卷上



第 3 章 相位位移法与相位

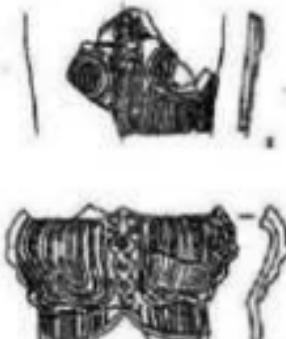
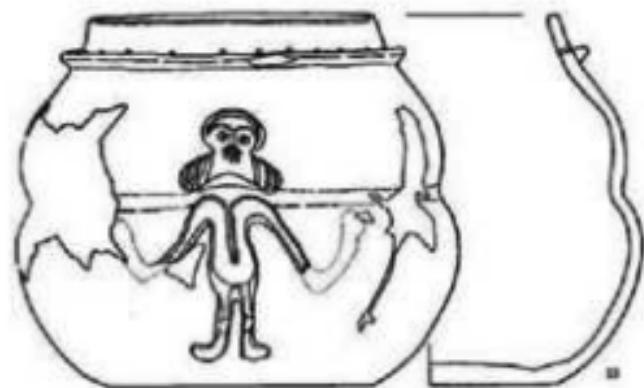
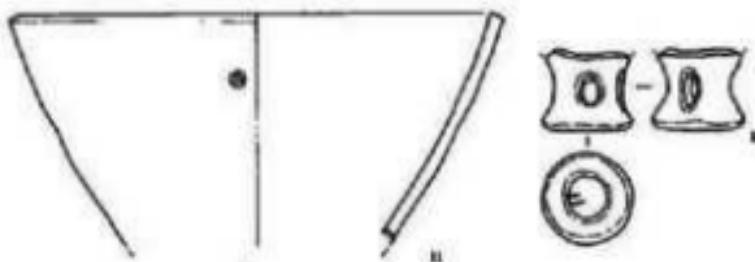
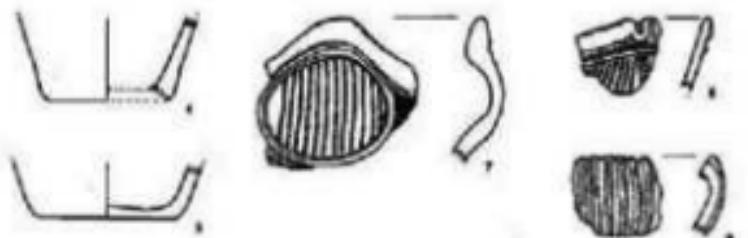


圖 9-4 幼年白頭鵙雀止血藥膏製法



图三三〇 仰韶文化大口陶罐

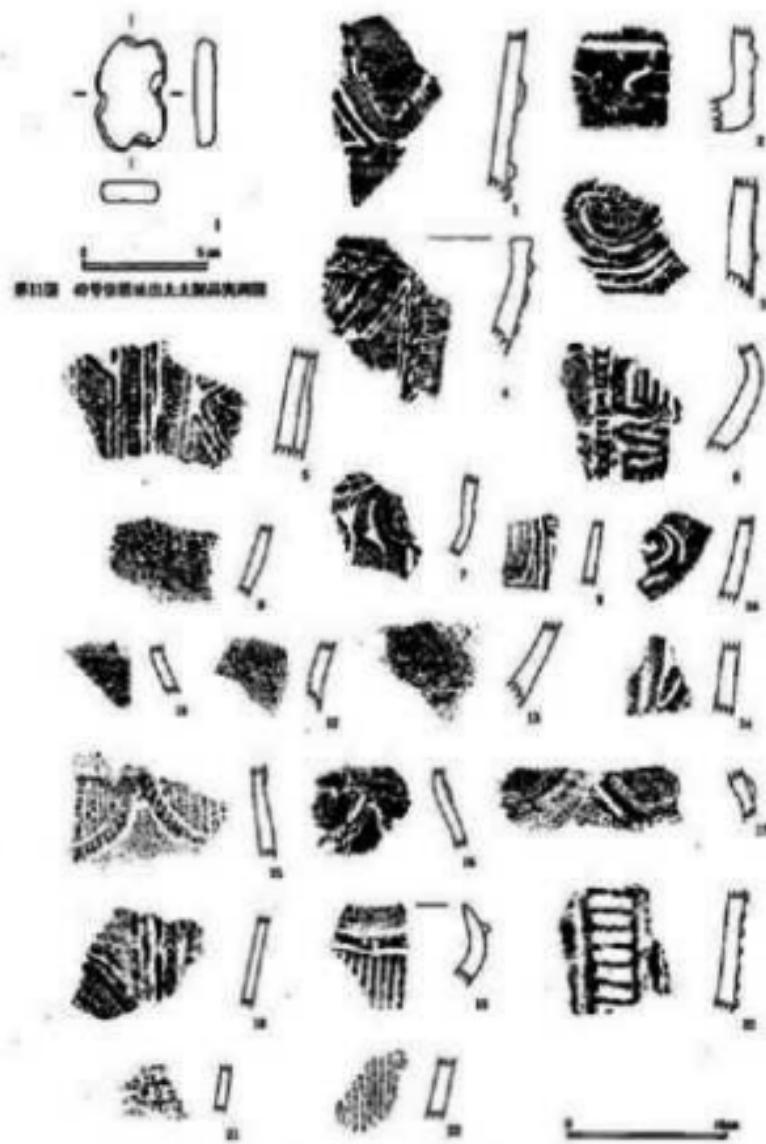


圖128 40件殷商時代的玉器殘片

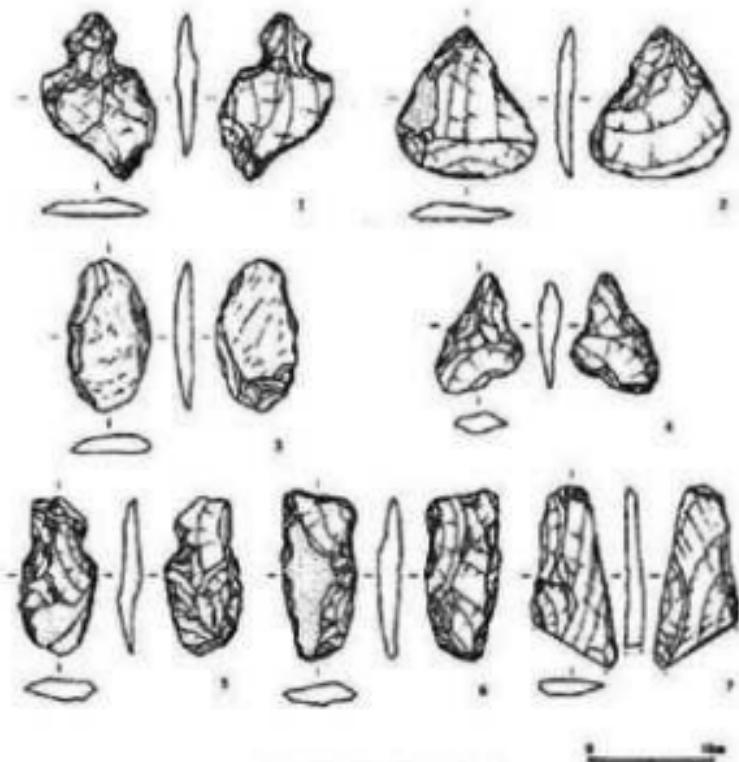


図13 第4号化成地盤土石層実測圖

4号住居址

住居址南東の斜面より検出した。住居址北側部分が南北により被覆されていたことや、被覆範囲が一部であったことからプランは不明である。埋れ高は25m~8mで表面は認められなかった。表面は暗褐色土層まで掘り込まれている。風土の盛り度となっているが、部分的にのみ認められ尚未よりも全体的に乾燥であった。

ピットは認められなかった。住居址北側部分の西側から中央部分にかけて暗褐色粘土の暗褐色粘土の層と、その周囲に風土が広がっていた。被覆部はカマド周辺と考え、断ち切ってみたのがカマドではなかった。カマドの底面、粘土分などが認められたことから本家のカマドに近い部分か、カマドの一部が南北により被覆されたものであると思われる。

また、住居址中央部からやや南側によった場所下から長さ約5m、埋め高4mの不透水性を有する土成層の断面を検出した。高さは13mで底部から北側傾斜部分にかけて暗褐色粘土が認められ、その上にはロームがみられた。暗褐色粘土はたいへんよく固まっていた。風土及び底面に大差による変遷は認められなかった。これが、この住居址に付属していたものか、別の遺跡のものかは判別しなかった。

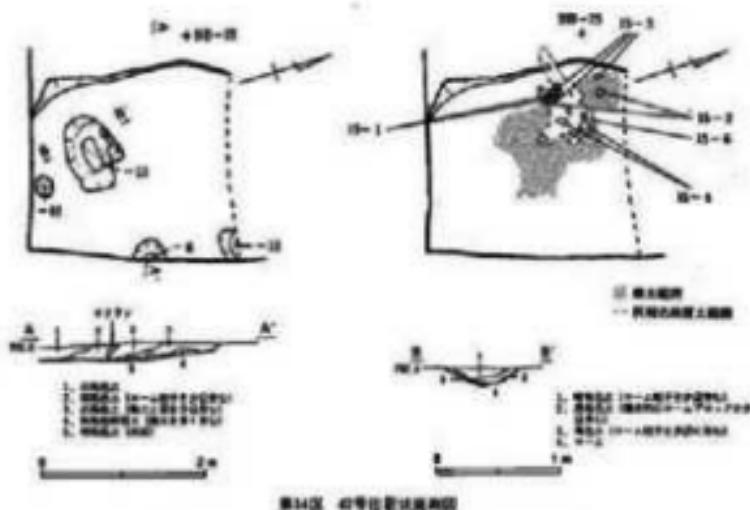


图44 4号窑址剖面图

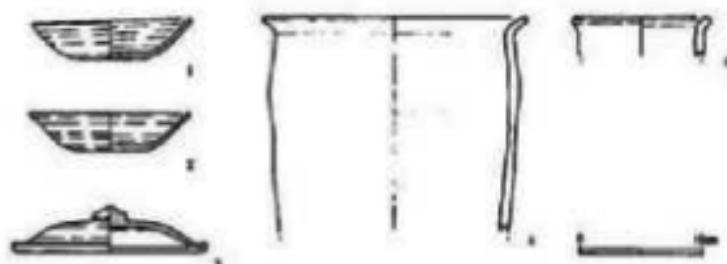


图45 4号窑址出土器物复原图

遺物は表面土上で観察された灰褐色粘土及びその周囲に広がっていた風土からまとめて出土しており、土師長柄鏡（図15-4）、鏡型土器（図15-5）、環巻器耳（図15-1-1）、蓋手の蓋（図15-3）、刀子（図15-6）、棒状の鉄製品（図15-7）のほか、黑色土器可溶鐵及び鉄製鏡片、環巻器鏡片が出土している。本日の時間は遺物などから平安時代末期であると思われる。

第2節 遺構外出土遺物

上面確認時ににおいて採集した遺物には平安時代中期小窓一中窓式の土器鏡片、黒曜石、青白土器鏡片（図16-1-1）、環巻器鏡片（図16-2）、用途不明の棒状の鉄製品（図16-4）の他、中世以降では近世～近代の陶磁器類が14点出土している。



図16-2 遺構外出土遺物写影・馬渕謹

第4章 総 括

今回の調査では、平成7年の調査時において人柱坑のみられる有孔井戸土器が出土した平安時代中期の古墳群と新たに平安時代初期の古墳長1杯を検出した。以下、今回の調査結果について問題点を上げ、簡単ではあるがまとめとしたい。

前回の調査では、40号古墳の開発範囲が古墳北側の一帯であり、検出した範囲が狭く、更に出土した遺物が有孔井戸土器と古井土器の合計のみであったために、平成7年が有孔井戸土器の埋蔵時期については、はっきりとしなかった。

今回の調査は40号古墳をはじめとするものであったが、墳丘の影響が広範囲にわたっており、予想に戻し遺跡の復元状態は良好とはいえないかった。しかし、出土した土器等により、40号古墳より出土した有孔井戸土器の埋蔵時期を複数する上での資料の追加をみたことは大きな成果であったといえる。

40号古墳から出土したビット及び鉄錠から後醍醐が記載されているか、もしくは記載していることを仮定させるものであった。後醍醐の影響から安定した所蔵が後醍醐の全様の1/4程度で、西宮から北側周辺に限られていたこと、また後醍醐北側の一帯が他の古墳と重複しているなどから既存古墳の並列などが明確に認められず、問題の残るものとなっていた。出土した土器についても中世中期～中近世にかけての複数時期のものが混在した形で認められたことから、年代の時期については慎重を檢討が必要と思われる。

有孔井戸土器の埋蔵時期についても前記と同様に慎重な検討を要するところであるが、出土位置及び底面から出土した古墳からみて住居が確認を失う時点まで本当に併せていた土器であると想えたい。

40号古墳から出土した遺物はそれほど多くないものの、有孔井戸土器や古井土器の合計などの遺物から積極的に色合いが強い後醍醐である印象を受ける。

久保上ノ平道跡から検出された南北時代の遺跡・遺物には、屋外に土器を配置した特殊遺跡や人の手を非常に意識的に施した土器片などがみられた。全般的に後醍醐の強いものが多く、これらとの関連を明らかにすることで、後醍醐の影響をより明確にできるようと思われるが、後醍醐を含めた全様の中での考察が必要であり、今後の資料の追加を期待したいところである。

平安時代の古墳ではある40号古墳についても、後醍醐の検出範囲がわずかで、その大部分が後醍醐により破壊されていたことから、背景については不明な部分が多いものであった。南面下より検出した青褐色粘土の點られた土器底の遺跡がどのようなものなのか問題であり、問題の残るものであった。

久保上ノ平道跡は両岸を石に積まれた段丘上に位置し、これまでの調査で検出された遺跡・遺物は過去に村内で開拓された遺跡と比較しても規模が大きく更に多くのまとまったものであり、学術的価値が高い遺跡であるといえる。久保上ノ平道跡には、まだ未開拓区域が北側に残っていることから、今後この部分を含めた周辺地域の保存対策が大きな課題になると考ふる。

なお最後になりましたが、調査及び本書の作成にあたり、ご理解と多大なご努力を頂いた関係諸機関をはじめ、費細密な御心、ご指導を頂いた先駆諸氏に改めて感謝し、お礼を申し上げたい。

引用参考文献

- 長野県教育委員会 1972 「長野県中央道周辺文化財伝承地実態調査報告書 上伊那郡美馬村
その1・その2」
- 佐田能人・中野龍吉協会 1985 「大竜川上流域地質図」
- 長野県史刊行会 1981 「長野県史 古代史編 全1巻II 遺跡・遺物」
- 南箕輪村教育委員会 1990 「南箕輪村誌 上巻 古代編・遠野編・信州生活編・歴史編」
「南箕輪村誌 下巻 歴史編」
- 南箕輪村教育委員会 1987 「大正東道路」
- 南箕輪村教育委員会 1989 「神子坂道跡整備委員会総合報告（第3次会報付）」
- 南箕輪村教育委員会 1973 「高橋道跡」
- 南箕輪村教育委員会 1975 「大正東道路」
- 南箕輪村教育委員会 1992 「北越外道路 宅地造成事業に伴う歴史文化財緊急整備調査報告書」
- 南箕輪村教育委員会 1993 「箕輪道路 上伊那郡南箕輪村境ノ舟中宿地区」
- 南箕輪村教育委員会 1994 「宮ノ上宿跡 宮ノ上道終点調査報告書」
- 南箕輪村教育委員会 1997 「久保上ノ平道路 基地公園及び宅地造成に伴う歴史文化財緊急調査報
告書」

第2表 地上土壤概要表

地 名	面 積 (公 頃)	土 壤 類 別	土 壤 性 質		水 分 性 質		鹽 分 濃 度	鹽 化 程 度	鹽 化 程 度		鹽 化 程 度
			電 導 率 (mho/cm)	pH	含 鹽 量 (%)	鹽 分 濃 度 (%)			鹽 化 程 度	鹽 化 程 度	
M100	10-1	鹽土	10.0	8.2	10.2	PF	PF	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	10-2	-	-	-	-	-	-	-	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	10-3	-	10.0	-	-	-	-	-	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	10-4	-	10.0	-	-	-	-	-	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	10-5	-	10.0	-	-	-	-	-	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	10-6	-	10.0	-	-	-	-	-	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	10-7	-	10.0	-	-	-	-	-	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	10-8	-	10.0	-	-	-	-	-	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	10-9	-	10.0	-	-	-	-	-	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	10-10	鹽土	10.0	-	-	1.0%	1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
M110	11-1	鹽土	10.0	8.1	10.0	PF	PF	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	11-2	-	10.0	8.0	10.0	-	-	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	11-3	鹽土	10.0	-	10.0	PF	PF	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	11-4	鹽土	10.0	-	-	PF	PF	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%
	11-5	鹽土	10.0	-	-	PF	PF	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%	鹽 化 程 度 輕度鹽化 鹽分濃度 1.0%

第3表 地土土壤分析結果

品種	試験番号	分類	底質 (cm)			重量 (kg)	地土性質	備考
			粗さ	細さ	等分			
42号種	12-1	土壤試験	4.8	2.9	0.8	(1)	地土中層	無水

第4表 地土石礫混融表

品種	試験番号	分類	底質	底質 (cm)			重量 (kg)	地土性質	備考
				粗さ	細さ	等分			
42号種	12-1	砂地	砂地	3.3	3.3	1.1	64	F.地土	
	12-2	粗沙質砂地	*	10.3	3.4	1.1	39	*	
	12-3	粗砂質砂地	カルシウム地 (強度)	6.7	3.3	1.1	32	地土中層	
	12-4	不定形砂地	砂地	7.1	3.3	1.3	34	*	
	12-5	砂地	*	3.3	4.8	1.3	37	地土上層	
	12-6	粗砂質砂地	*	10.1	3.3	1.4	38.5	*	石礫混融、硬砂質 地土
	12-7	*	カルシウム地 (強度)	(10.0)	(3.3)	0.9	39.5	*	石礫混融

第5表 地土鉱物分析結果

品種	試験番号	分類	底質 (cm)			重量 (kg)	地土性質	備考
			粗さ	細さ	等分			
42号種	12-6	砂地	14.3	1.1	0.4	(34)	地土上層	生根性欠陥
	12-7	砂地	15.3	0.4	0.4	4	*	生根性欠陥
粗砂地	12-4	*	3.3	3.3	0.2	9	地土下層	硬造平均

図 版

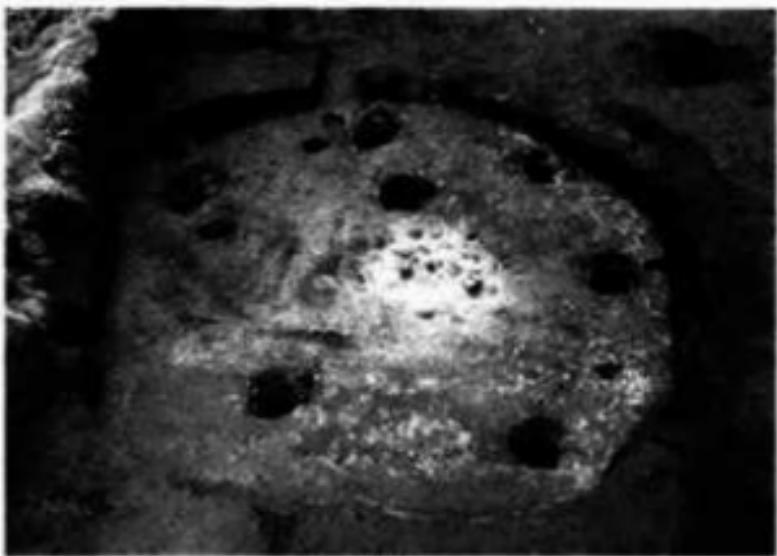


禹吾城遺址（南方 1 号）



禹吾城遺址（南方 2 号）

圖版 2

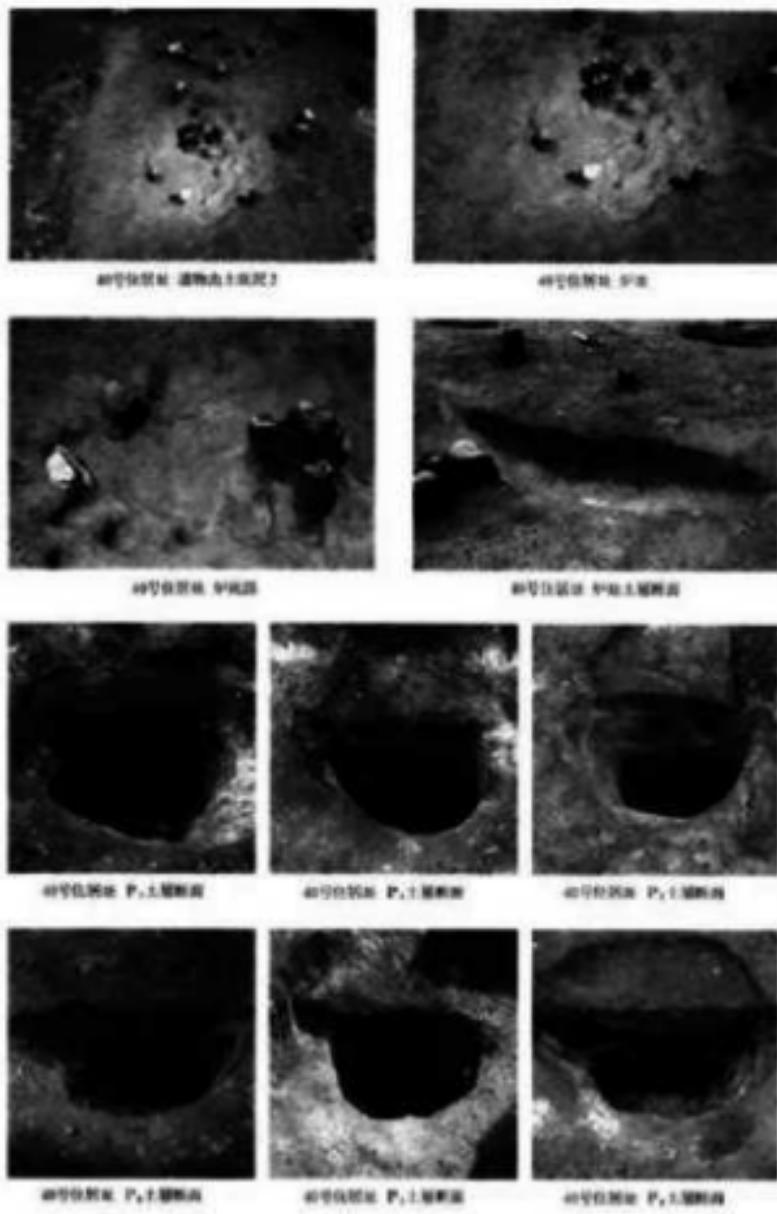


植物性炭斑



植物性炭斑 植物性土壤斑

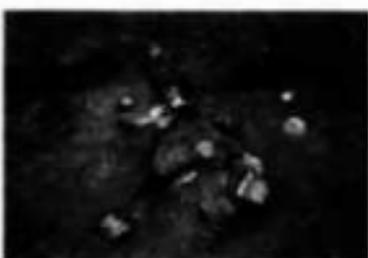
图版 3



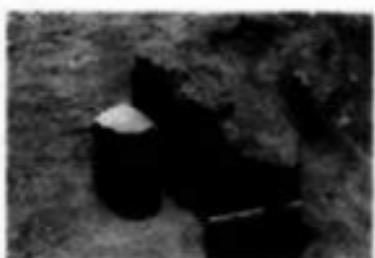
图版 4



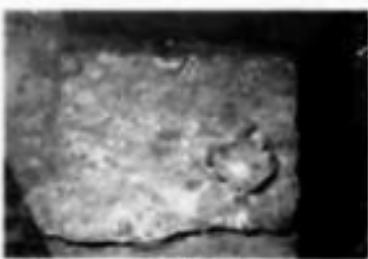
42号红陶片



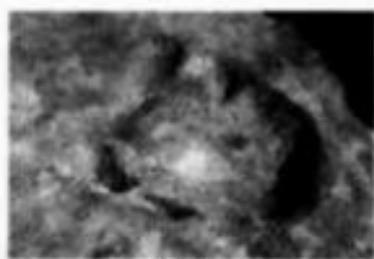
42号红陶片 遗物出土情况



42号红陶片 遗物出土情况



42号红陶片

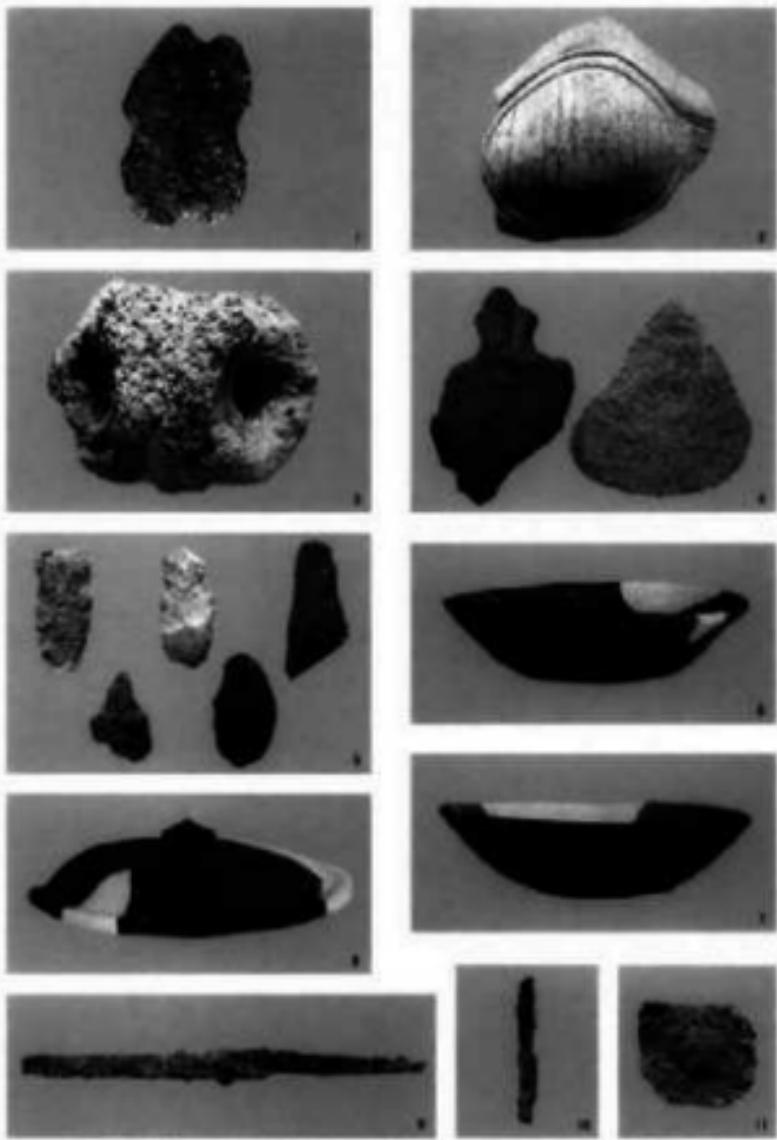


42号红陶片 土块出土情况



1~6. 46号墓出土. 黑土罐

图版 6



1. 401号灰陶盆 油土上剥落 2. 401号灰陶盆, 护底泥土层剥落 3. 401号灰陶盆, 护底泥土层剥落 4. 401号灰陶盆, P₁油土石器 5. 401号灰陶盆, 油土上剥落 6—8. 401号灰陶盆, 油土上层 6—7. 401号灰陶盆, 油土上层 8. 401号灰陶盆, 油土上层 9. 401号灰陶盆, 油土上层

報告書抄録

ムラガタ	1997年6月11日付						
著者名	久保上ノ平謹						
題　名	滋賀県水路遺跡調査に伴う歴史文化財調査と水路遺跡の発掘作業						
著　者							
レガーブ番号							
監　督　名	久保上　平						
監　督　職	滋賀銀行歴史文化財調査調査監修官						
連絡電話	TEL 0736-75-1000 滋賀銀行歴史文化財調査室(内線番号) TEL 0736-75-1002						
監督年月日	1996年3月26日						
ムラガタ	ムラガタ	アート	北	東	西	南	概要
監督監修官	監督監修官	監督監修官	北	東	西	南	概要
久保上ノ平謹	久保上ノ平謹 監督監修官 TEL 0736-75-1000	2000	20	37° 37° 37°	127° 127° 127°	19960323 1 20000328	100m 滋賀県水路 遺跡調査に 伴う発掘調 査
所轄監修官	監　督	主　令　時　代	主　令　遺　跡	主　令　遺　跡	特　記　事　項		
久保上ノ平	久保上	時代 朝代 季節 年号	飛鳥中期遺跡 平安初期遺跡	飛鳥中期 平安初期 古伊勢 奈良中期 奈良後 土師器 瓦	平安中期 飛鳥 奈良中期 奈良後 土師器 瓦	平成7年調査時に 人頭文化が発見 昭和時代に土蔵が作 成した時の柱の跡 を確認実測した。	

愛媛県立伊予灘浦高等学校（現・高知文理高校）吹奏樂部吹奏會

久瀬上ノ平選跡

平成23年3月26日　発行

著　者　長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

発　行　長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

印　刷　江上アート書籍株式会社

